

われもこう

第91号

2015年3月23日発行

高槻ライフケア協会

題字 谷本 章 さん

「いっしょに逃げる」ということ

認定NPO法人 ゆめ風基金

代表理事 牧口 一二

戦争や大災害など世の中全体が大混乱になった時、われら障害者はどうしても後回しになる。1才の病で足が不自由になり、小学入学期は第2次大戦中で「空襲時に危ない」と学校へ行けず3年遅れて1年生になったボクは、以後、戦争への恐怖が身体のどこかにこびり付いている。20年前の阪神淡路大震災の折には障害者が世話を役らしき人に状況を尋ねると「いま、それどころではない」と言われ、4年前の東日本大災害時の避難所では「あなたたちの来る所ではない」と相手にされなかつたという。16年間、何も変わっていなかつた。

本来なら、人間社会は介護が必要な人から先に助ける仕組みがあつていいと思うのだが、こちら側の身勝手かと少し思つたりして、平常時こそ有効に活用して緊急時に備えておこうと、阪神淡路大震災を機に被災した障害者を支援する「ゆめ風基金」活動を始めた。われらのモットーは日赤やNHKと違い、「①いち早く届ける②確実に手渡す③不公平を

恐れず必要な額を」である。お金は常に動いているので正確な報告は難しいが現状を大雑把にいうと、この20年間に著名人の力もお借りして多数の人々から約7億円が寄せられ、約3億円は国内・海外の被災地で暮らす障害者群の復興に活用され、活動費・事務費・人件費に約1億円、いま約3億円をプールしているところ。

じつは、発足して2年経つあたりから億単位の基金を預かることになり、当初は日本のことしか念頭になかったが、海外の自然災害ニュースにその国の障害者事情も気になり、情報をかき集めて見舞金程度だが届け始めた。20年間に12か国、これってホントの国際化？

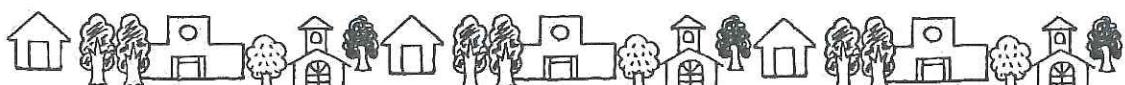
国内も集中豪雨・噴火・地震・台風と自然災害が多発し、基金残高が2億円に減った頃、東北大地震・大津波そして福島原発大事故が起きた。スタッフ一同、「いま残っている2億円をすぐに東北の障害者に届けよう」と決め、東北への活動が始まる。

そこで「津波てんでんこ」という言葉に出合う。昔から津波被害が多かった三陸海岸地域の言い伝えであろう。「てんでんこ」はテンデバラバラの意らしい。つまり、「津波が起きたら周りを気にせず、1人ひとりテンデバラバラ一目散に高台へ逃げろ」とのこと。じつはこの言葉が広がったのは、そう古くなく、阪神淡路大震災の2年前(1993年)の7月。北海道南西沖の奥尻島大津波の折、ある親子3人が急いで高台へ逃げる途中、「祖母も一緒に」とちょっと寄り道をした。そのほんの少しの時間差で3人は津波に飲まれてしまう。ところが、祖母は近所の人と先に高台へ逃げていた、という悲しい出来事。この地域ではおそらく、こうした悲劇が幾度となくあったのだろう。そこで、「まず自分が助かること」「気になる周りの人は(自分で)逃げていると信じること」が広がっていったのだと思う。「周りを気にせず1人で逃げよ」なんて聞くと、自分一人では逃げ切れない障害者や高齢者はギクッとくる。だけど、よくよく考えてみると、われらを助けてくれる人たちが生き延びてこそ、われらも助けられる。「津波てんでんこ」には、他者を救う意味も含まれているように思う。

ところで、ボクの住まいは14階建てUR団地7階の2DK。ワンフロアの真ん中に長い

廊下、その両側に19世帯が暮らしている。廊下の南端にエレベーター2基と非常階段、北端は非常階段のみ。子に恵まれなかつたボクたち夫婦は引越しせず47年になる。まだ松葉づえの頃(10~60才)、「謙譲の美德」なんて全く違うのだが、緊急事態になれば隣近所の人たちが逃げられてから急いで逃げよう、と思っていた。ボクも一緒に逃げようと階段に向かうと被害が大きくなるからだ。松葉づえでは、健常な人が階段を駆け下りる速さとは明らかに違う。おそらくボクは押されて転げ落ちるだろう。飛び散った杖に引っかかって転ぶ人が出る。その人に押されて転げ落ちる人も……あー、大混乱になるのは必至、考えるだけで目を覆いたくなる。やっぱり周りの人たちの後で急いで逃げよう、そう思っていた。

だが、「ゆめ風基金」活動を始めて、人の「命」にあらためて感じこと多く、「しぶとく生きぬこう」と強く思うようになった。障害者や高齢者の中には、遠慮からか逃げるのを諦めてしまう人もおられるようだが、「生きる」に淡泊にならず綺麗に諦めず、「迷惑かけても生きぬきたい」「人間って結構しぶといよ」を感じ合いたい。



サービス提供実績報告

◇社会福祉法人

《訪問介護》

2014年12月～2015年2月	
利用件数	3,726 件
利用時間	3,019.12 時間
生活援助	1,818.76 時間
身体介護	1,200.36 時間

《介護予防訪問介護》

2014年12月～2015年2月	
利用件数	868 件
利用時間	878.48 時間

《ケアワーカー派遣サービス》

2014年12月～2015年2月	
利用件数	392 件
利用時間	429.0 時間
家事援助	262.5 時間
身体介護	23.5 時間
社会的援助	143.0 時間

◇特定非営利活動法人

《福祉移送サービス》

2014年12月～2015年2月	
利用件数	29 件
利用時間	1,676 分
利用距離	510 km

ご協力に感謝します 2014年4月1日～2015年3月23日(敬称略・順不同)

<社会福祉法人>

◇寄附金 累計 133人 3,659,000円
 丸山良雄、馬庭京子、高橋郁子、田中静馬、
 堀越眞弓、安見次生、牧口明、枠上利男、
 深尾徳彦。

◎社会福祉法人高槻ライフケア協会への寄
 附金は、確定申告の際、税額控除制度の適
 用を受けることができます。

《障がい者居宅介護》

2014年12月～2015年2月	
利用件数	2,844 件
利用時間	2,915.75 時間
家事援助	1,097.75 時間
身体介護	1,515.50 時間
通院介助	302.50 時間

《重度訪問介護》

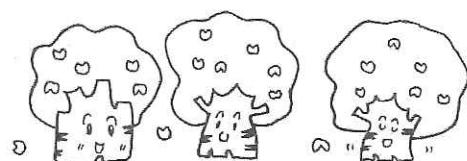
2014年12月～2015年2月	
利用件数	136 件
利用時間	255.50 時間

《同行援護》

2014年12月～2015年2月	
利用件数	251 件
利用時間	531.00 時間

《移動支援》

2014年12月～2015年2月	
利用件数	662 件
利用時間	1,793.0 時間



◇寄贈

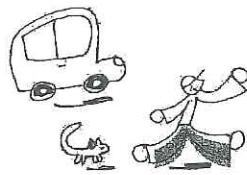
松野佳三、森木洋子、武林一美、政平、井
 上吉弘。

<NPO法人>

◇後援会費 累計 333,000円
 前田淑子、坂元勝利。

◇寄附金 累計 116,000円

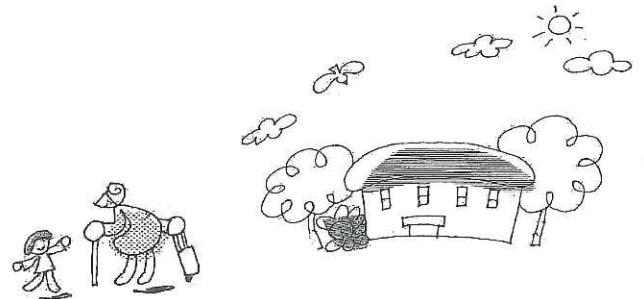
小規模多機能型居宅介護・地域交流センター



あすなろ

4月1日(水)

日吉台に オープンします



◎小規模多機能型居宅介護とは

2015年4月1日、高槻市日吉台一番町に小規模多機能型居宅介護「あすなろ」が開所します。小規模多機能型居宅介護では、介護が必要になっても住み慣れた自宅や地域で暮らし続けることができるよう365日の支援をします。日中の通いのサービスを中心に、本人や家族の必要に応じて泊りや訪問のサービスが、なじみのスタッフにより提供されます。

認知症の人にとっても、安心でき心やすらぐ場になります。

《通いのサービス》 午前9時～午後3時30分(延長可能です)

◇ご自宅まで送迎します。(送迎時間はご相談に応じます)

◇お昼ごはんは旬の食材を活かした家庭料理です。

(ご希望で晩ごはんも食べていただけます)

◇お風呂は一人ずつ入浴します。

◇レクリエーション、創作活動、散歩、地域活動や行事に参加できます。

《泊りのサービス》 午後4時～午前9時30分

◇ご自宅まで送迎します。

◇晩ごはん、朝ごはんがあります。

◇泊りの部屋は、個室と二人部屋があります。

《訪問のサービス》

◇ご自宅を訪問し、身体介護、生活援助、見守り、安否確認など、暮らしを継続して支援します。

※相談・助言

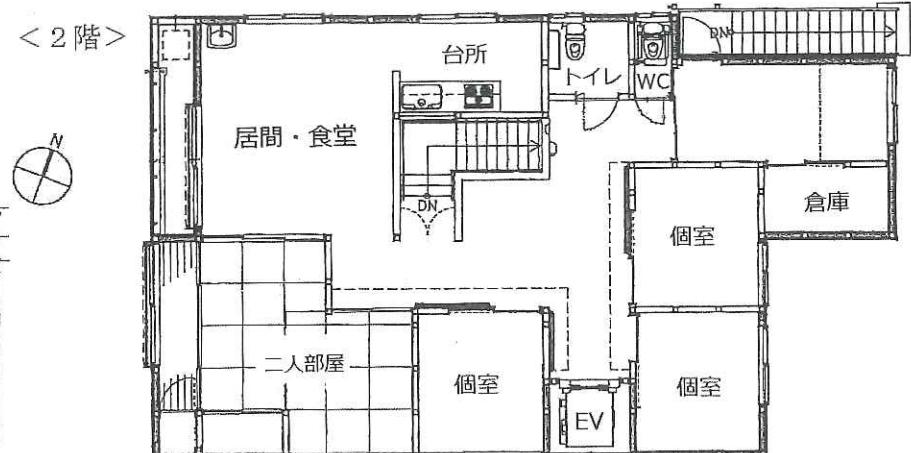
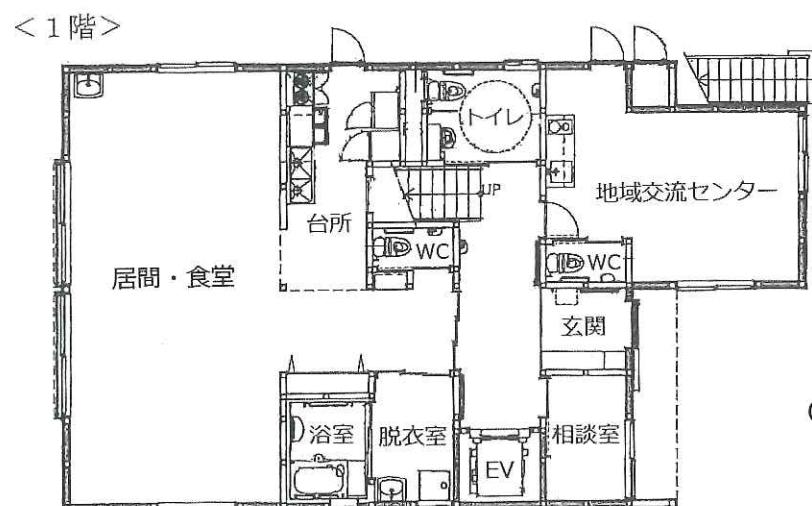
- ・介護支援専門員が対応します。
- ・日常生活や介護保険利用についてご相談ください。
- ・介護保険の代行申請もできます。

◎あすなろは…

不思議なご縁で、日吉台に土地を提供していただく方とお会いする機会に恵まれました。大阪府森林組合のご協力で、地産地消の檜材を活用した木造2階建てです。1階は15人が利用できる通いのスペースと地域交流センター、2階には泊りの部屋(一日当り定員5人)を用意しています。

あすなろでは、利用者一人ひとりの思いや気持ちに寄り添い、地域のつながりを生かし、その人らしい暮らしを支えます。家庭的な雰囲気の中でのきめ細やかな支援を行います。

地域交流センターは、近隣の人たちが気軽に訪れ、趣味や文化活動をはじめ多様な集いの場になるように、地域ボランティアを主体に企画運営します。



◎サービス利用についてのお問合せ

サービスを利用できるのは、介護保険の要支援1・2、要介護1～5の認定を受け、高槻市に住民票のある方です。詳しいご説明をいたしますので、お気軽にお問合せください。

小規模多機能型居宅介護 あすなろ (高槻市日吉台一番町24番28号)

電話 (072)668-3485 (4月1日以降) (072)683-4945 (4月1日まで)

デイだより

暖かい日が続き、早く味噌作りをしなければと急ぎ材料を準備しましたが、三寒四温とはよくいいたものです。味噌作りにはちょうどよい厳しい寒さが、またすぐにもどってきました。

水に浸けた大豆を柔らかく炊きビニール袋の中に分け入れて、利用者の皆さんと一緒に棒で叩いたり延ばしたりしました。「入浴の時間ですよ」と声掛けしても、「まだ豆がつぶれてないからちょっと待って。こんなんするのん好きやねん」と楽しそうに言う人々、「昔家で作ってたよ。思い出すわ」と、手際よく麹と塩を混ぜる人。最後に味噌玉をカネに投げ入れる作業では、「それは私

に任せて。…このやろうエイ！エイ！」と力いっぱい投げ込む人もありました。

容器の縁についた作りたての若い味噌をちょっと味見。「いい味しとる。きっと美味しい味噌ができる」と皆で言い合いました。この味噌でお味噌汁をいただける日が楽しみです。



訪問介護だより

今年の2月で105歳になったMさんは、黒髪がふさふさとして80代にも見える紳士です。日中は、ひとりで辞書を見ながら漢字を写したり、ケアワーカーが訪問すると戦前、戦中、戦後の体験談をいきいきと話されます。「後姿は若者ですね」と言うと、にこにこ笑われます。

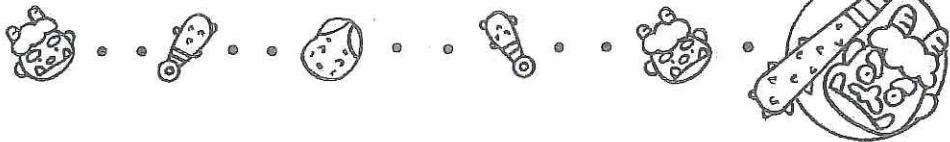
ところで、今年は寒さの厳しい日が多くったせいか、利用者の中には体調を崩したり、転倒し骨折して入院される方もありました。せっかくお元気で過ごしておられたのにと思うと残念です。早くお元気になって帰っていただきたいと願っています。



朋(とも)だより

1階 生活介護

2015年の年明けに、今年もよい年となりますようにと書初めをしました。「健康」と書く人が多い中、Tさんは大好物の「ホットケーキ」と書かれ、Hさんは「今年こそ朋に若いスタッフが入りますように」と書かれました。絵馬や凧などお正月の飾りも作り、個性豊かな書初めと一緒に、部屋中に飾りつけました。



2月には豆まきを楽しみました。スタッフや利用者が扮する鬼に向かって落花生をまき、おおいに盛りあがりました。途中、落花生の殻をむき中身のピーナツを食べました。「おいしいわー」とUさんが言うと、Oさんが「ビール欲しいわー」と応えられ、大笑いとなりました。

2階 小規模多機能型居宅介護

くらし創造の家 朋(とも)では食事を作る専門のスタッフがいます。ハンバーグや卵豆腐など全て手作りのおかずと、温かいご飯にお味噌汁が提供されています。「美味しいから今まで残したことないわ」と言つても完食されるMさんなど、利用者の皆さんから好評を頂いています。

夕食も専門のスタッフが作りますが、唯一日曜日の夕食だけは利用者と職員でメニューを決めて一緒に作ります。焼きそばやうどん・焼きめしといった普段の食事にはないメニューが並びますが、中でも好評なのはお好み焼きです。

切った具材を混ぜあわせると、フロアのテーブルに大きなホットプレートを置き、焼き

始めます。仕事で海外を飛び回っていた頃使っていた英語が今でも口についてでるAさん。お願ひすると「いいよ。僕に任せて」と上手にお好み焼きをひっくり返してくださいます。それを見ながら、できあがるのを今か今かと待ち構えている他の皆さん。フロア全体にお好み焼きのよいにおいが漂ってきて、皆が自然と笑顔になるひとときです。



今年もやります！ くらし創造の家朋(とも) 春の交流会



4月1日(水) 10:00スタート ご来場お待ちしています。



開催場所：くらし創造の家 朋(とも) 高槻市富田町 4-17-10



◎毎年好評のバザーは掘出し物いっぱい。

◎つきたて餅、さくら餅、あんこ餅、かやくごはん、お赤飯もあります。

受講生募集中 (詳しくはホームページ <http://www.tcn.zaq.ne.jp/tlca/> をご参照ください)

□ 介護職員初任者研修 (木曜日コース)

・5月7日(木)～10月15日(木)のうち 計25日間 (補講あります)

(一部、木曜日以外に設定されている科目があります)

・会 場 高槻ライフケア協会北園町研修室その他

・受講料 65,400円 (税込、テキスト代含む) ・定員 16名

※補講もあります。詳しくはお問合せ下さい。



物品販売にご協力ください (値上げしないで頑張っています！)

□島原手延べ素麺 眉山の糸

長崎県島原市の白山製麺製です。

1kg～5kg : 1,200円～5,300円

*高槻市、茨木市、島本町、枚方市

は送料無料(その他の地域は実費)

□コーヒー(豆、挽)

ブルマンとジャマイカのブレンド

1kg:1,700円 500g:850円

□おとひめこんぶ

南北海道般法華村の黒口浜一帯で
育成された真昆布一年物です。

1袋:500円

【編集後記】

大地震や集中豪雨、火山噴火などの自然災害の発生で、命のはかなさを思い知らされました。災害は突然、容赦なくやってくるのですね。備えといえば家具の転倒防止や非常食の準備を思い浮かべますが、今回巻頭言を寄せてくださった牧口一二さんが「ゆめ風基金」で取組まれたのは、資金を集め、ネットワークをつくって、災害時に障がい者を支援するための備えでした。「ゆめ風基金」のホームページにこれまでの活動がたくさん紹介されています。その発想と行動力に目をみはります。

社会福祉法人高槻ライフケア協会 特定非営利活動法人高槻ライフケア協会

〒569-0806 高槻市明田町5-7

〒569-0802 高槻市北園町4-19

TEL (072) 683-4945

TEL (072) 682-4119